

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：山田 安隆 幹事：大村 精二

会報委員長：清水 忠

1975・4月3日

第37号

“寒雉の三角がま”



十三代寒雉 宮崎彦九郎氏

能登中居は平安の昔から釜の特産地であった。徳川時代に入ると一時は二百人を超える鋳物師が塩釜や梵鐘を造り、遠く飛騨、越後まで出荷していたという。

その頃、加賀五代藩主前田綱紀に招かれて、茶道、茶具奉行をつとめていた千仙叟宗室は、中居の鋳物師の中で特に傑出した宮崎寒雉を金沢に招いた。

一日、千宗室は宮崎寒雉と卯辰山のきのご狩りを楽しみ、昼餉の握り飯をころころ落した時に、このような形の釜は作れぬものかと冗談まじりに語り合った。

それから四、五ヶ月後に、初代寒雉が精魂こめて造り上げたのが三角がまである。

わが国でも唯一つのその名品は、三百年後の今日に、香り高い手づくりの美を遺している。

—金沢北RC例会卓話より— (文責 清水 忠)



卯辰山碑林散歩 (11)

—卯辰山公園創設記念碑—

金沢城を一望する位置にある卯辰山は藩政時代、市民の自由な登山が禁じられていた。

しかし、慶応三年、最後の藩主前田慶寧が初めて山上開拓の工事を起してから幾星霜を経て、今日市民のいこいの山上公園となった。

碑はその創設を記念して昭和三年建立された。題字は中橋徳五郎筆。

私 の 名 刺

庄 田 厚 郎



終戦の翌春、21年3月に材木町小学校を卒業。私の小学校時代は太平洋戦争のまっただ中、空腹とさつまいも作り、マキ拾い、そうしたことだけが強く印象に残っております。

旧制金沢二中に入学。わずか2年間の在籍で、学制改革により金沢商業高等学校併設中学3年に編入。この1年間は、商業教育を受けていなかった私達は、初めての珠算、簿記などにずいぶん肩身が狭い思いをしたものでした。不思議なことに、中学校の同窓会名簿には、金沢二中はもとより金商にも私達の学年はのっていないのです。まったく中学校同窓会については無国籍、空白なのです。

24年春、新設された金沢桜丘高校に入学。太宰治ブームを背景に私の級友が睡眠薬自殺、それが連鎖反応を起し、また、授業のサボタージュが頻発するなど、まだまだ戦後の混乱が尾を引いていた3年間でした。また、演劇部を創設、高校演劇コンクールに3年間連続第1位となり、将来演劇人にと夢みた時代でもありました。

27年、金沢大学法文学部に入学。同好の志で自立劇団を作り公演3回で赤字倒産の憂身のみたり山男ぶって、北アルプスを歩きまわったり、勉強そっちのけで青春を謳歌したものでした。

卒業後、北国銀行に入社。9年間の支店勤務ののち、企画室調査課に所属、その8年間には、経営コンサルタント養成講座に派遣していただいたり、金沢青年会議所に入会させていただいたり、現在までで最も勉強した期間でした。

そして、昨年5月、金沢青年会議所の仲間達に、造園関係の方も加わり、北陸緑化株式会社を設立。住宅の庭園、工場の造園・緑化、都市の環境緑化、土木用緑化資材の販売など、緑に関することは何んでも設計、施工、管理しようと、それぞれスタッフもそろえ、「誠意」と「信用」と「努力」を信条として業務にはげんでおります。

金沢は山紫水明の地、森の都と云われておりますが、それこそ町中が緑と花でおおわれた町、そうした町造りの一端でも担えたらと願っております。

さて、末尾ではございますが、何分にも未熟な私でございます。金沢北ロータリークラブの末席をけがす一員として皆様方のご指導のほどを切にお願い申し上げます。

新入会員紹介

(新たに仲間となった人たちです。おめでとう。)

入会日	職業分類	氏名	会社名・役名	会社住所	自宅住所	推薦者	委員会
3月6日	造園	庄田厚郎	北陸緑化(株) 取締役社長	金沢市長土堀 3-5-1	金沢市常盤町 13-1	山田 淳 大村精二	情報
4月3日	木材販売	加藤悦大	(株)加藤松商店 専務取締役	金沢市湊2-22	金沢市神宮寺 2-8-1	木田忠男 清水 忠	親睦

日本ロータリー承認記念日にあたって

修練委員会

日本、最初のロータリークラブである東京RCが正式に承認されたのは1921年、大正10年4月1日付で、その登録番号は855である。この日を記念して、日本ロータリー承認記念日としているがこれより先、前年の10月20日、東京の銀行クラブにおいて、24名によって創立総会を開いたので、この日が日本に初めてロータリーの灯が点火されたことになる。

チャーターメンバーには、深井英五氏らをはじめ、時の日本財界巨頭による、いわゆるエリート集団が形成されている。会長には米山梅吉、幹事には福島喜三次の両氏が就任した。

東京RCが誕生するに至る経緯を追って見ると……大正7年、三井銀行重役の米山氏らの財政調査団がテキサス州のダラスを訪問したところ、たまたま、ここに駐在していた三井物産の福島喜三次氏がダラスのロータリー会員であったことから、一行はロータリーを初めて知り、深く印象づけられて帰国したのである。

その後、福島氏が国内勤務となって東京へ帰るにあたって、ダラスRCは、日本にもロータリークラブをつくるよう強く勧奨した。一方、シカゴの本部からも東京クラブの創立を要請して来たので、機運は急速に促進されるに至ったのである。

福島氏は日本人最初のロータリアンであり、東京RCの初代幹事となったが、間もなく大阪勤務となったのが奇縁で、大正11年11月17日には25名によって大阪RCが誕生し、ここでも初代幹事となった。このように、福島氏は日本ロータリーの陰の大立物であり、その功績は大きい。今は故人となられたが、出身地の佐賀県有田には有田RCによって福島氏の顕彰碑が建てられていると聞いたことがある。

東京RCの創立当時は、会員選考の重要条件が語学であり、文書はすべて英文であったという。例回は毎月1回、第2水曜日に開催されたが、出席率も極めて悪く、一時、存続を危ぶまれるまでになったが、ここに救命的な大事変が勃発した。

それは、大正12年9月1日の関東大震災で、東京・横浜は壊滅したとの報が全世界に伝えられた。ところが、国際ロータリーからは、大阪RCを経由で、ガイ・ガンデーカー会長名で懇篤なる見舞電報と共に、2万5千ドルがおくられて来た。続いて、シカゴRCから1千5百ドル、その他英加など各国の503クラブから8万9千ドルの義援金がおくられ、これらは東京・横浜の小学校再建資金として大きな役割りを果たすこととなった。

俄然、ロータリーへの真価と認識が改まり、やがて月1回の変則的な例会も、毎週1回に正しく行われるようになり、出席率も一変し向上した。一方、ロータリー熱は日本全国に拡大し、名古屋、神戸、京都、横浜、広島、札幌と続々新クラブの誕生が続出し、当地区では昭和10年6月19日金沢(17番)、昭和10年6月21日岐阜(19番)、昭和11年1月14日四日市(21番)の順で認証されて行った。

かくして、昭和15年7月末現在で、日本内地37クラブ。外地では台湾3クラブ(台北、高雄、基隆)朝鮮4クラブ(京城、釜山、平壤、大邱)、満洲4クラブ(大連、奉天、ハルピン、新京)など11クラブ、合計48クラブ、会員数2,122名となり、日満ロータリー連合会まで形成されていたが、昭和15年秋には、米英追隨の故をもって、戦禍の犠牲となり、日本内外、すべてのロータリークラブは、悲運なる解体を余儀なくされるに至ったのである。

(文責 柴田 三郎)

